



第74回大会 TEAM FUKUOKA NEWS

福岡県選手団サポートニュース H31.2.16 Vol.2

立ちはだかる「サッポロテイネ」の壁

マイナス11℃のジャイアントスラロームの決戦の地「サッポロテイネ」。選手達を最も苦しめたのは気温ではなく、コースだった。

最大傾斜33度、標高差357m、全長1,240mの超難関コースは、中腹地点から、スタート位置が見えない。また、アイスバーンとなった箇所もあり、更に難易度を増すコースに、滑り降りてくる選手達は苦しんでいた。次々に滑りおりてくる選手達を見ていると、まるで壁を滑っているようにも見える。成年男子Bに出場する松田倫明選手（福岡県立太宰府特別支援学校(教)）、松田篤征選手（住友重機械工業(株)）は※インスペクション後に、こう口を揃えた。「このコースのポイントは斜度に臆することなく、いかに突っ込むことができるか。しかし滑ってみて、その角度は数字以上のものを感じる。コースと自分自身との闘いとなるだろう」このコースを攻略するためには、選手達が口を揃えて言ったとおり、壁にも見えるサッポロテイネのコースに勇気をもって突っ込むことが大切だ。

ジャイアントスラロームに出場した本県選手団の結果は、善戦するも残念ながら得点に絡むことはできなかった。しかし、明日も戦いは続く。一人でも多くこの壁を攻略し、目標を達成してもらいたい。

※インスペクション・・・レース前に公式のコース状況を見極めるための下見。

県代表として闘い抜いた南波選手

成年女子Aに出場した南波陽菜選手（大阪産業大学4年）は、今回の国体を一区切りに、競技生活を離れる可能性が高い。小学4年から、スキー競技を始め、週末には長野県まで足を運び、心技体に磨きをかけるなど、スキー競技にかける思いは誰よりも強い。

レース後には、「県内のみならず、九州で共に戦ってきた選手がいたからこそ、ここまで続けてこられた。仲間みんなには本当に感謝したい」と語ってくれた。

南波選手のように、誰よりも自分に厳しく、そして感謝の気持ちを持って戦える選手が、将来、福岡県の未来を担うジュニア育成に携わり、TEAM FUKUOKAを支える指導者になってくれることを切に願う。



【松田篤選手と松田倫選手】



【ジャイアントスラロームの会場】



【南波選手と小川監督】

クロカンの活躍

白旗山競技場にて行われたクロスカン트리ー競技において、本県からは6名の選手が出場。中でもひと際輝いた選手が、石田京選手（九州大学4年）である。成年女子A 5kmクラシカルに出場し、43人中27位。前日語った目標の30位以内を有言実行してみせた。

レース後は、「県代表としての自覚を持ち、またTEAM FUKUOKAの一員となれるよう、来年に向けて努力を続けます」と、来年2月に開催される富山国体での活躍が期待できるコメントを残した。北国チームの壁は厚い。しかし、九州・福岡の地に、新たな風を吹かせてくれることを期待する。



【石田選手（中央）クロスカンントリー選手団】

HP「ふくおかスポネット」でもニュースレターを配信しております。ぜひご覧ください。

作成者：福岡県選手強化推進実行委員会事務局〔福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課〕

TEL：092-643-3924

